

第5章 環境影響要因の抽出及び 環境影響評価項目の選定

第5章 環境影響要因の抽出及び環境影響評価項目の選定

本事業の内容を基に、まず環境に影響を及ぼす恐れのある要因（以下「環境影響要因」という。）を表5.1-1に示すとおり抽出しました。次に、環境影響評価を行う項目を、地域の概況及び周辺地域等の環境特性、地域特性を勘案して選定しました。選定した項目は、表5.1-2に示すとおりです。

また、項目選定について選定した理由及び選定しない理由は、表5.1-3(1)～(2)及び表5.1-4(1)～(2)に示すとおりです。

なお、選定した項目の予測対象時期は、表5.1-5に示すとおりです。

表 5.1-1 環境影響要因の抽出

区分	環境影響要因	抽出の理由
工 事 中	建設行為等	<ul style="list-style-type: none"> ・造成工事や建物の建築等の工事を実施します。 ・本事業と並行して土壌汚染対策工事を実施します。 ・既存の建築物や構造物の解体工事を実施します。
	建設機械の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・造成工事や建物の建築等のために、建設機械が計画地で稼働します。
	工事用車両の走行	<ul style="list-style-type: none"> ・資機材の運搬や、廃棄物等の搬出を行う車両が走行します。
供 用 時	施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地内に公園施設が出現し、土地利用が変化します。
	施設の運用	<ul style="list-style-type: none"> ・公園施設管理・運営作業が行われます。 ・利用者及び施設管理関係者が施設を利用します。
	来園車両等の走行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者による来園車両及び管理用車両が走行します。

注) 区分欄に掲げる「供用時」は、公園整備が完了し全体供用開始後の時点を示します。

表 5.1-2 環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

環境の 保全 及び創造に 向けた 基本的な考え方	環境影響 評価項目		環境影響要因 細目	区分			供用時		
				工事中			施設の 存在	施設の 供用	
				建設行為等	建設機械の稼働	工事用車両の走行	・施設の存在 ・土地利用の変化	施設の運営	来園車両等の走行
地球環境への 負荷の低減	温室効果ガス		温室効果ガス	—	—	—	—	—	—
身近な自然環境の 保全・再生・創造	生物 多様性	動物	動物	○	—	—	○	—	—
		植物	植物	○	—	—	○	—	—
		生態系	生態系	○	—	—	○	—	—
	水循環	地下水位及び 湧水の流量		○	—	—	○	—	—
河川の形態 ・流量		—	—	—	—	—	—		
海域の流況		—	—	—	—	—	—		
安心して快適に 生活できる 生活環境の保全	廃棄物・建設発生土	一般廃棄物		—	—	—	—	○	—
		産業廃棄物		○	—	—	—	○	—
		建設発生土		—	—	—	—	—	—
	大気質	大気汚染		○	○	○	—	—	○
	水質・底質	公共用水域の 水質、底質 ・地下水の水質		○	—	—	○	—	—
	土壌	土壌汚染		○	—	—	—	—	—
	騒音	騒音		—	○	○	—	—	○
	振動	振動		—	○	○	—	—	○
	地盤	地盤沈下		—	—	—	—	—	—
	悪臭	悪臭		—	—	—	—	—	—
	低周波音	低周波音		—	—	—	—	—	—
	電波障害	テレビジョン 電波障害		—	—	—	—	—	—
	日影	日照阻害		—	—	—	—	—	—
		シャドー フリッカー		—	—	—	—	—	—
	風害	局地的な 風向・風速		—	—	—	—	—	—
安全	土地の安定性		○	—	—	○	—	—	
	浸水		—	—	—	—	—	—	
	火災・爆発		—	—	—	—	—	—	
	有害物漏洩		—	—	—	—	—	—	
快適な 地域環境の 確保	地域社会	地域分断		—	—	—	—	—	—
		交通混雑		—	—	○	—	—	○
		歩行者の安全		—	—	○	—	—	○
	景観	景観		—	—	—	○	—	—
	触れ合い活動の場	触れ合い 活動の場		—	—	—	—	—	—
文化財等	文化財等		—	—	—	—	—	—	

表 5.1-3(1) 環境影響評価項目の選定の理由（工事中）

環境影響評価項目		選定	選定理由
評価項目	細目		
温室効果ガス	温室効果ガス	×	本事業において大規模な土地の造成は行わず、公園施設も既存施設の活用を行うことから、建設機械の稼働は少なく工事中に発生する温室効果ガスはわずかであるため、評価項目として選定しません。
生物多様性	動物	○	計画地は、自然環境の残された地域であり、本事業の工事により影響を受ける動物・植物・生態系があると考えられるため、評価項目として選定します。
	植物	○	
	生態系	○	
水循環	地下水位及び湧水の流量	○	本事業において、大規模な土地の造成は行わないものの、計画地には湧水が存在し、工事による湧水の分布及び流量が変化する可能性があるため、湧水の流量を評価項目として選定します。 なお、地下水位については、本事業で造成を行う箇所が、敷地内に仮置きされている残土を元の地盤面程度まで切土する計画であることや、推察される地下水位より深くまで改変を行わない計画であることから、影響は少ないと考えられるため、評価項目として選定しません。
	河川の形態・流量	×	本事業の工事では、河川に影響を及ぼす可能性がある計画地の改変はなく、河川の形態、流量が変化する可能性はないため、評価項目として選定しません。
	海域の流況	×	本事業の工事では、海域の流況に影響を及ぼす要因はないことから、評価項目として選定しません。
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物	×	本事業は、現況の地形の改変を極力回避した整備計画とすることから一般廃棄物は少量となります。更に、横浜市独自のリサイクルシステムを含めた適切なりサイクルを行うため、ごみとなる量が少なく周辺への影響はわずかであるため、評価項目として選定しません。（p.12-66～p.12-67 参照）
	産業廃棄物	○	本事業の工事中における既存設備撤去及び施設の建設に伴い、産業廃棄物の発生が予想されるため、評価項目として選定します。
	建設発生土	×	計画地内で発生した建設発生土は、計画地内の盛土材として再利用する予定であるため、評価項目として選定しません。
大気質	大気汚染	○	本事業の工事中における建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い発生する排出ガスが、計画地周辺の大気質に影響を及ぼすことが予想されるため、評価項目として選定します。また、解体工事に伴うアスベストの飛散による影響が懸念されるため、評価項目として選定します。
水質・底質	公共用水域の水質、底質・地下水の水質	○	計画地は、貯油施設跡地で土壤汚染が確認されており、土壤汚染対策工事を行うことから、湧水及び地下水の水質に影響を及ぼす可能性が考えられるため、地下水の水質を評価項目として選定します。 なお、公共用水域の水質、底質については、本事業では汚水は公共下水道に排水する計画であり、公共用水域に影響を及ぼす要因はないため、評価項目として選定しません。
土壌	土壌汚染	○	計画地は、貯油施設跡地土壌汚染が確認されており、土壌汚染対策工事を行うため、評価項目として選定します。
騒音	騒音	○	本事業の工事中における建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い発生する騒音が、計画地周辺の環境に影響を及ぼすことが予想されるため、評価項目として選定します。

表 5.1-3(2) 環境影響評価項目の選定の理由（工事中）

環境影響評価項目		選定	選定理由
評価項目	細目		
振動	振動	○	本事業の工事中における建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い発生する振動が、計画地周辺の環境に影響を及ぼすことが予想されるため、評価項目として選定します。
地盤	地盤沈下	×	本事業の工事では、地盤沈下を招くような地下水の揚水、排除、遮断は行わないこと。また、盛土部における園路整備にあたっては路床土としての適否を判断し、必要な対策を検討するほか、施設の設計にあたり、地盤調査を行い基礎構造の検討をすることから、評価項目として選定しません。
悪臭	悪臭	×	土壌汚染対策工事に当たっては、施工範囲をシートで囲う、汚染土壌の運搬時にはシートで覆うなどの措置を講じることにより、周辺地域に対する悪臭の影響がわずかであると考えられるため、評価項目として選定しません。
低周波音	低周波音	×	工事で使用する建設機械は、市街地の建設工事で一般的に使用される建設機械であり、日常生活に支障となるような低周波音を発生させる恐れはないため、評価項目として選定しません。
電波障害	テレビジョン電波障害	×	本事業の工事では、テレビジョン電波障害の発生要因はないため、評価項目として選定しません。
日影	日照阻害	×	本事業の工事では、日照阻害の発生要因はないため、評価項目として選定しません。
	シャドーフリッカー	×	本事業の工事では、シャドーフリッカーの発生要因はないため、評価項目として選定しません。
風害	局地的な風向・風速	×	本事業の工事では、周辺地域の風環境に影響を及ぼす要因はないため、評価項目として選定しません。
安全	土地の安定性	○	計画地内に崖が存在するため、評価項目として選定します。
	浸水	×	本事業の工事では、周辺地域に浸水の影響を及ぼす要因はないため、評価項目として選定しません。
	火災・爆発	×	本事業の工事では、可燃物や有害物質を大量に蓄積することはないため、また、安全管理に十分配慮するため、評価項目として選定しません。
	有害物漏洩	×	
地域社会	地域分断	×	本事業の工事では、地域分断をおこす交通経路の遮断はないため、評価項目として選定しません。
	交通混雑	○	工事用車両の走行に伴い、周辺道路の交通混雑及び交通安全に影響を及ぼすことが予想されるため、評価項目として選定します。
	歩行者の安全	○	
景観	景観	×	本事業の工事では、景観に影響を及ぼす要因はないため、評価項目として選定しません。
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	×	本事業の工事では、計画地周辺地域の触れ合い活動の場に影響を及ぼす要因はないため、評価項目として選定しません。
文化財等	文化財等	×	計画地内に埋蔵文化財包蔵地は存在しないため、評価項目として選定しません。

表 5.1-4(1) 環境影響評価項目の選定の理由（供用時）

環境影響評価項目		選定	選定理由
評価項目	細目		
温室効果ガス	温室効果ガス	×	本事業では、計画地内の豊かな自然を保全し活用する計画であり、エネルギーを必要とする施設は少なく温室効果ガスの発生はわずかであるため、評価項目として選定しません。
生物多様性	動物	○	計画地内における自然環境の一部改変や、創出が行われることから、本事業の供用により影響を受ける動物・植物・生態系があると考えられるため、評価項目として選定します。
	植物	○	
	生態系	○	
水循環	地下水位及び湧水の流量	○	本事業では、谷戸空間再生整備に伴い、湧水の流量、性状の変化が考えられることから、湧水の流量を評価項目として選定します。 なお、本事業で整備する井戸は、農業体験用の限られた用途での利用を予定しており、地下水位の著しい低下を招くような地下水の揚水は行わないことから、地下水位の細目について評価項目として選定しません。
	河川の形態・流量	×	本事業では、大規模な樹木伐採や土地の形質の変更は行わず、河川の形態、流量に影響を及ぼさないことから、評価項目として選定しません。
	海域の流況	×	本事業では、海域の流況に影響を及ぼす要因はないことから、評価項目として選定しません。
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物	○	供用時における施設の運営に伴い、一般廃棄物の発生が予想されるため、評価項目として選定します。
	産業廃棄物	○	供用時における施設の運営に伴い、産業廃棄物の発生が予想されるため、評価項目として選定します。
	建設発生土	×	供用時には建設発生土は発生しないため、評価項目として選定しません。
大気質	大気汚染	○	施設関連車両の走行に伴い発生する排出ガスが、計画地周辺の大気質に影響を及ぼすことが予想されるため、評価項目として選定します。
水質・底質	公共用水域の水質、底質・地下水の水質	○	本事業では、井戸から揚水した地下水の利用が考えられるため、地下水の水質を評価項目として選定します。 なお、公園内の施設における水利用・排水処理は、公営上水道及び公共下水道を利用する計画であり、公共用水域に影響を及ぼす要因はないため、公共用水域の水質、底質は評価項目として選定しません。
土壌	土壌汚染	×	本事業では、現状の土壌汚染については、土壌汚染対策法に基づいて処理することとし、利用者の立ち入りが想定される地上部は、汚染土壌を掘削除去して良質土と置き換え、掘削除去された汚染土壌は地下タンクに封じ込め処理や盛土による処理を行います。 施設の運営に当たっては、地下トンネル部分は立ち入りを禁止するなどの対策を行います。 土壌汚染対策を行った周辺では地下水のモニタリングなど、定期的な調査を行い、安心安全な公園を整備します。 以上の理由より、評価項目として選定しません。
騒音	騒音	○	施設関連車両の走行に伴い発生する騒音が、計画地周辺の環境に影響を及ぼすことが予想されるため、評価項目として選定します。
振動	振動	○	施設関連車両の走行に伴い発生する振動が、計画地周辺の環境に影響を及ぼすことが予想されるため、評価項目として選定します。

表 5.1-4(2) 環境影響評価項目の選定の理由（供用時）

環境影響評価項目		選定	選定理由
評価項目	細目		
地盤	地盤沈下	×	本事業では、地下水位の低下を招くような地下水の揚水、排除、遮断は行わないこと。また、盛土部における園路整備にあたっては路床土としての適否を判断し、必要な対策を検討するほか、施設的设计にあたり、地盤調査を行い基礎構造の検討をすることから、評価項目として選定しません。
悪臭	悪臭	×	本事業では、悪臭の発生要因はないため、評価項目として選定しません。
低周波音	低周波音	×	本事業では、周辺地域に低周波音の影響を及ぼす施設はないため、評価項目として選定しません。
電波障害	テレビジョン電波障害	×	本事業では、周辺地域に電波障害を及ぼす高層建築物はないため、評価項目として選定しません。
日影	日照阻害	×	本事業では、周辺地域の日照に影響を及ぼす高層建築物はないため、評価項目として選定しません。
	シャドーフリッカー	×	本事業では、大規模な風力発電施設の建設はなく、シャドーフリッカーは発生しないため、評価項目として選定しません。
風害	局地的な風向・風速	×	本事業では、周辺地域の風環境に影響を及ぼす高層建築物はないため、評価項目として選定しません。
安全	土地の安定性	○	計画地内に崖が存在し、利用者の安全確保に配慮が必要なため、評価項目として選定します。
	浸水	×	本事業では、周辺地域に浸水の影響を及ぼす要因はないため、評価項目として選定しません。
	火災・爆発	×	本事業では、可燃物や有害物質を大量に蓄積することはないため、評価項目として選定しません。
	有害物漏洩	×	
地域社会	地域分断	×	本事業により地域の共同体の一体性及び地域住民の日常的な交通経路が変化する可能性はないため、評価項目として選定しません。
	交通混雑	○	施設関連車両の走行に伴い、周辺道路の交通混雑及び交通安全に影響を及ぼすことが予想されるため、評価項目として選定します。
	歩行者の安全	○	
景観	景観	○	土地の改変及び施設の存在により、計画地周辺の景観が変化することが予想されます。また、計画地内に旧海岸線である崖線が含まれるため、評価項目として選定します。
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	×	計画地周辺地域の触れ合い活動の場に影響を及ぼす要因はないため、評価項目として選定しません。
文化財等	文化財等	×	計画地内に文化財等は存在しないため、評価項目として選定しません。

表 5.1-5 選定した項目の予測対象時期

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年
		H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
整備 スケジュール	第1期	第1期(緑の広場空間創造エリア整備)																
	第2期	第2期(自然環境保全エリア、里山空間再生エリア整備)																
	第3期	第3期(活動・体験・学習エリア整備)																
		一部供用開始																
		→ 全体供用																
環境影響評価項目		工事中																
生物多様性	動物・植物・生態系	→																
水循環	湧水の流量	→																
廃棄物	一般廃棄物	→																
	産業廃棄物	→																
大気質	建設機械の稼働	→																
	工用車両の走行	→																
	来園車両等の走行	→																
水質・底質	解体工事	→																
	地下水の水質	→																
	土壌汚染	→																
騒音	建設機械の稼働	→																
	工用車両の走行	→																
	来園車両等の走行	→																
振動	建設機械の稼働	→																
	工用車両の走行	→																
	来園車両等の走行	→																
安全	土地の安定性	→																
	工用車両の走行	→																
	来園車両等の走行	→																
地域社会	土地の改変、施設の存在	→																
	工用車両の走行	→																
	来園車両等の走行	→																
景観	土地の改変、施設の存在	→																
	工用車両の走行	→																
	来園車両等の走行	→																